管理栄養士国家試験

得点アップのための

一問一答 TOKU-ICHI 対照表

〈1〉社会・環境と健康

法律、行政データなど、大きな変更がみられたものについてまとめました。
お差し替えのうえ、ご利用ください。（2017 年 3 月 1 日現在）

ページ	該当箇所		旧	新
P.7	**1**-006	解説	感染症の予防であり、先進国では生活習慣病や環境問題などである。	感染症の予防**から非感染性疾患にうつり変わりつつある**。
P.11	**1**-016	解説	根絶宣言	根絶**決議**
P.21	**2**-031	解説	遊離残留塩素濃度を 0.1mg/L 以上に保持するよう義務づけられている。	遊離残留塩素**または結合残留塩素の基準が設定されている**。
P.21	**2**-033	解説	水を沈殿し	水を**薬品**沈殿し
P.27	**3**-013	解説	肺がんであり、次いで胃がん、肝臓がん、大腸がんの順となっている（平成 24 年）。	肺がんである**。そのほか近年に多くみられるのものとして、減少傾向にある胃がん・肝臓がん、横ばい傾向にある大腸がん、増加傾向にある結腸がん・膵臓がんなどがある**。
P.45	**4**-040	解説	特異度	**偽陽性率**
P.45	**4**-043	解説	一方を上げれば一方が下がるといったトレードオフの関係	一方を上げれば**もう一方も上がる**関係
P.50	**5**-007	問題	脂質異常症（高脂血症）受療率は、40 ～ 70 歳までの加齢とともに増加する。	脂質異常症（高脂血症）**外来**受療率は、**40 ～ 59 歳が最も高い**。
P.51	**5**-007	解説	○　平成 24 年国民健康・栄養調査では、メタボリックシンドロームが疑われる者の割合は、男女ともに 40 ～ 70 歳までの加齢とともに増加している。	×　**平成 23、26 年患者調査では、脂質異常症の外来受療率は 79 歳まで加齢とともに増加する**。

株式会社インターメディカル

ページ	該当箇所		旧	新
P.50	**5**-008	**問題**	40～70歳までの	**40歳以降**
P.51	**5**-008	**解説**	平成24年国民健康・栄養調査では、……男女ともに40～70歳までの加齢とともに増加している。	**近年の**国民健康・栄養調査では、……男女ともに**40歳以降**加齢とともに増加している。
P.51	**5**-010	**解説**	○　とくに60歳代で高い	×　とくに**70**歳代で高い
P.53	**5**-018	**解説**	○　平成24年国民健康・栄養調査によると、現在習慣的に喫煙している者の割合は、女性では20歳代(12.3%)、30歳代(11.9%)、40歳代（12.7%）が多い。	**×　成人女性における現在習慣的に喫煙している者の割合は、近年30歳代～50歳代が最も多く、およそ12%である。**
P.52,53	**5**-022	**問題** **解説**	血中ニコチン濃度	血中**コチニン**濃度
P.55	**5**-029 **5**-030	**解説**	平成24年国民健康・栄養調査によると、……男性34.0%、女性7.3%となっている。	**近年の**国民健康・栄養調査によると、……男性**35%前後**、女性**7～8%で、女性は、男性の5分の1程度である。**
P.61	**5**-052	**解説**	○「80歳以上で20歯以上……目標値25%	×「80歳で20歯以上……目標値**20%**
P.73	**6**-025	**解説**	淋菌感染症	**性器ヘルペス**感染症
P.73	**6**-029	**解説**	H5N1を除く	H5N1**とH7N9**を除く
P.75	**6**-036	**解説**	措置入院では、都道府県知事は、精神障害者であり、入院させなければ自傷他害のおそれがあると認めたときは、精神科または指定病院に入院させることができる。	**緊急**措置入院では、都道府県知事は、**自傷他害のおそれがある**精神障害者で**急速な入院を要する場合、1名の指定医の診断で72時間に限って**入院させることができる。
P.80	TOKU-ICHIゼミ**31**		感染症法の対照となる疾患（平成20年5月施行）	感染症法の対照となる疾患（平成**28**年**4**月施行）
			2類感染症中に次を追加	**鳥インフルエンザ（H7N9）、中東呼吸器症候群（MERS）**
			4類感染症中の鳥インフルエンザ（H5N1）を右に変更	（鳥インフルエンザ（H5N1、**H7N9**）を除く）
P.82,83	TOKU-ICHIゼミ**33**		定期の予防接種（平成25年5月現在）	定期の予防接種（平成**28**年**5**月現在）
			※別表①	

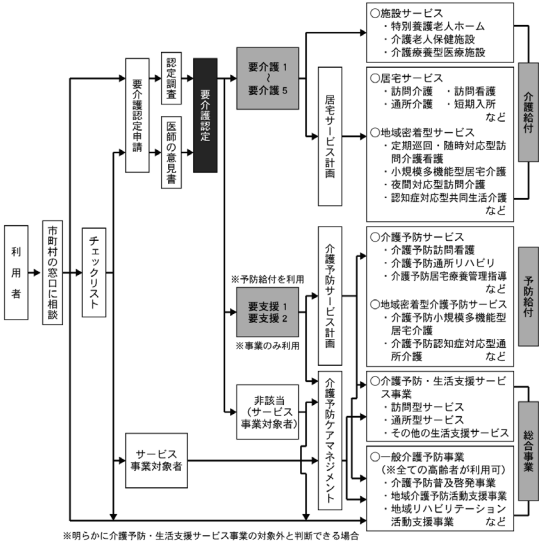
※**別表①**：太字は変更・追加した箇所です。

	対象疾病（ワクチン）		接種 対象年齢等		接種 標準的な接種年齢等 *2	回数
A類疾病	結核	BCG ワクチン	1 歳未満		**生後 5 月から生後 8 月の間（ただし、地域における結核の発生状況等固有の事情を勘案する必要がある場合は、必ずしもこの通りではない）**	1 回
A類疾病	肺炎球菌（小児）	**沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン**	変更なし			
A類疾病	**水痘**	**乾燥弱毒生水痘ワクチン**	**1 回目**	**生後 12 ～ 36 月**	**1 回目は 12 ～ 15 月**	**2 回**
			2 回目		**2 回目は 1 回目から 6 ～ 12 月経過した時期**	
A類疾病	**ヒトパピローマウイルス *6**	変更なし	変更なし		**中 1 相当**	3 回
B類疾病	**肺炎球菌（高齢者）**	**23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン**	**前年度末に各 65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳、100 歳の者（平成 27 年度～ 30 年度までの間）**			**1 回**

＊ 6　ヒトパピローマウイルスの予防接種は平成 26 年 6 月に、予防接種との因果関係が否定できない持続的な疼痛が、予防接種後に特異的にみられたことから、この副反応の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種の積極的勧奨が差し控えられている。

ページ	該当箇所		旧	新
P.99	**7**-057	解説	平成 24 年の法定特殊健康診断で最も有所見率が高いのは、高気圧（高圧室内業務・潜水業務）（8.1%）である。特定化学物質の有所見率は 1.0%で、鉛・石綿に次いで低い。	**近年**、法定特殊健康診断において最も有所見率が高いのは、**東日本大震災後から除染等の業務にかかわる人に多くみられる除染等電離放射線で、9%前後である。特定化学物質は 1%程度である。**
P.103	**7**-078	解説	×　学童期の死亡原因で最も多いのは不慮の事故で、次いで自殺、悪性新生物となっている（平成 24 年）。	○　学童期**で多くみられる死亡原因には、自殺のほかに、不慮の事故、悪性新生物がある。**
P.105	**7**-084	解説	非伝染性疾患	非**感染**性疾患
P.107	**7**-089	解説	1998 年の WHO 総会	**1988** 年の WHO 総会
P.110	TOKU-ICHI ゼミ **39**		**変更** ※別図②	

※別図②



ページ	該当箇所	旧	新
P.110	TOKU-ICHI ゼミ **41**	（平成 24 年 4 月改正）	（平成 **28** 年 **3** 月改正）
		〈第一種〉 鳥インフルエンザ（H5N1）	〈第一種〉 **中東呼吸器症候群** *2、**特定** 鳥インフルエンザ（H5N1、**H7N9**）
		〈第二種〉 インフルエンザ *2	〈第二種〉 インフルエンザ *3
		〈脚注〉 ＊2　鳥インフルエンザ（H5N1）及び新型インフルエンザを除く	〈脚注〉 **＊2　病原体が MERS コロナウイルスであるものに限る** **＊3　特定鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9）を除く**

調査年が多少古いものについては、近年データの傾向に大きな変更がみられない場合、本表に記載はございません。